

平成 30 年 6 月 22 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03132

研究課題名(和文)「アラブの春」後の中東における非国家主体と政治構造

研究課題名(英文) Non-State Actors and Political Structure in the Middle East after "Arab Spring"

研究代表者

青山 弘之 (Aoyama, Hiroyuki)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：60450516

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は「アラブの春」が中東地域にもたらした混乱に着目し、そのなかで台頭を遂げた非国家主体と、「弱い国家」となった各国の主要な政治主体が織りなす政治構造の実態を解明することを目的とした。具体的には、東アラブ地域諸国の政治の動静に焦点を当て、既存の国家枠組みのなかで政治を主導してきた軍、治安機関、政党・政治組織、NGOなどと非国家主体の関係、そしてその関係が政治や社会の安定性に及ぼす影響を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research project focuses on the unrest brought by the Arab Spring to the Middle East, and aims to reveal the actual state of the political structure constructed by the non-state actors, which have gained power amid the unrest, and major political actors of the countries that have become "weak states." Specifically, it pays particular attention to the political movement in the Arab East countries and clarifies the relationship between the non-state actors and the organizations, which have led the politics in these countries within the existing state framework such as the army, security agencies, political parties and political organizations, and NGOs, as well as revealing the influence that such a relationship has on the political and social stability of the region.

研究分野：地域研究、政治学

キーワード：政治学 地域研究 中東

1. 研究開始当初の背景

2011年のチュニジアでの体制転換に端を発する「アラブの春」は、アラブ諸国に未曾有の政治変動をもたらした。この政治変動は当初、「独裁体制」対「民衆デモ」という硬直的ステレオタイプのなか押し込められ、「民主化」に向けた動きとして理解・期待されることが多かった。だが結果的に見れば、「アラブの春」が波及した国のなかで、「民主化」を達成した事例は皆無で、そのいずれもが「弱い国家」としての度合いを強め、治安悪化や武力紛争に苛まれた。

こうした惨状は、東アラブ地域においてもっとも顕著だった。「アラブの春」が最後に波及したシリアでは、バッシュール・アサド政権が抗議デモを弾圧した後も、欧米諸国、アラブ湾岸諸国、トルコが「民主化」支援と称して執拗な干渉を続け、「強い国家」としての地位を揺るがしていった。とりわけ、アラブ湾岸諸国とトルコは、力によるシリアの体制転換を促そうと、外国人ジハード主義者を反体制運動に参加させ、アサド政権に対する決定打を欠く欧米諸国もこれを黙認した。外国人ジハード主義者は、ほどなくシャームの民のヌスラ戦線(その後、シャーム・ファトフ戦線、シャーム解放委員会へと改称)、イスラーム国(ISIS、ISIL、IS)として糾合し、「国際社会の脅威」と目されることになった。

「アラブの春」の波及によって混乱に陥った国は、東アラブ地域諸国においてはシリアだけだったが、同国の紛争はほどなく周辺諸国にもさまざまなかたちで波及した。

レバノンではヒズブッラーがアサド政権を支援するためにシリアでの戦闘に参加したが、その是非をめぐって国内の対立が激化し、国会議員と大統領の改選が不可能となった。レバノンは2005年の「杉の木革命」以降、国家機能の麻痺が常態化していたが、シリアの紛争はこうした事実上の無政府状態を決定的なものとした。パレスチナでは、ハマースが「アラブの春」による域内勢力図の変化に呼応するかたちでアサド政権との関係を解消し、カタル、エジプトに接近した。だが、ハマースは、両国が内政および外交面で迷走した結果、アラブ世界におけるプレゼンスの低下に直面した。こうした事態は、イスラエルによるガザ攻撃(2014年)を誘発し、ファタハとの挙国一致体制、さらにはパレスチナ・イスラエルの和平プロセスに暗雲を投げかけた。イラクでは、シリアで勢力を得たイスラーム国の侵入と、欧米諸国によるヌーリー・マーリキー政権辞任要求によって、欧米主導のもとに確立していた「民主主義」が事実上破綻した。

以上のような東アラブ地域情勢は、「アラブの春」後の混乱が、パレスチナ問題、イラク問題、レバノン問題といった従前の紛争と絡み合うかたちで周辺諸国に拡散し、「紛争のドミノ」、「混乱のドミノ」とでも言うべき

状況が生じたと総括できた。そして、こうした状況を生み出した背景には非公的政治主体、ないしは非国家主体の台頭があった。

2. 研究の目的

こうした状況を踏まえ、本研究は「アラブの春」が中東地域にもたらした混乱に着目し、そのなかで台頭を遂げる非公的政治主体、ないしは非国家主体と、「弱い国家」となった各国の主要な政治主体が織りなす政治構造の実態を解明することを目的とした。具体的には、「アラブの春」波及後の混乱がもっとも深刻な東アラブ地域諸国の政治の動静に焦点を当て、シリア、イラクで勢力を伸張するイスラーム国、レバノンのヒズブッラー、パレスチナのハマースといった非国家主体がいかなる組織かを把握したうえで、既存の国家枠組みのなかで政治を主導してきた軍、治安機関、政党・政治組織、NGOなどどのような関係を築いてきたのか、そしてこの関係が各国および東アラブ地域の政治や社会の安定性にいかなる影響を与えてきたのかを明らかにすることをめざした。

東アラブ地域諸国の政治は、法的・制度的な枠組み、さらには既存の国境線のなかで権力を行使する大統領(府)、国会、政党・政治組織など公的政治主体によって担われているのではなく、こうした枠組みを超えて活動する非公的政治主体、具体的には、軍、治安機関、対イスラエル抵抗組織といった主体が決定的な役割を担ってきた。「権力の二層構造」、ないしは「権力の二元的構造」と称されるこの政治構造において、非公的政治主体は、「アラブの春」波及以前は中東随一の「強い国家」と目されてきたシリアでは、権威主義体制の維持・強化を主導し、また常態的に国家機能が麻痺しているイラク、レバノン、そしてパレスチナでは、国家に代わって国防、福祉を担う「国家内国家」としての役割を担ってきた。

「アラブの春」波及後の混乱は、非公的政治主体の重要性をさらに高めた。シリアでは、統治能力を低下させたアサド政権下の国家機能を補うかたちで、国防隊、バース大隊、人民諸委員会といった民兵・自警団や官制NGOが、自発的に、ないしは政府主導のもとで治安活動や社会活動を代行した。また同国北東部では、クルド民族主義政党の主導のもと西クルディスタン移行期民政局(通称ロジャヴァ)が発足し、政権との戦略的關係のもと支配地域の統治を担った。またレバノンでは国家機能が麻痺するなか、ヒズブッラーをはじめとする政治勢力が社会生活の維持に努め、パレスチナでも、ファタハやハマースが挙国一致体制の構築をめざしつつ、それぞれの支配地域における実効支配を強化していった。つまり、東アラブ地域の非公的政治主体は、情勢を単に変化させ、不安定をもたらすだけでなく、混乱による政治や行政の空白を埋め、安定をもたらそうとする側面を持

っているのである。

本研究では、非公的政治主体が政治構造のなかで持つこうした多様な役割にまさに着目し、これらが「弱い国家」群となった東アラブ地域諸国の政治秩序にいかなる役割を果たしているのかを解明することに力点を置いた。また新たに台頭した非公的政治主体が、従前的な非公的政治主体、さらには衰弱した公的政治主体がいかなる関係を織りなし、政治構造をかたち作っているのか、その全体像を示すことで、「アラブの春」後の東アラブ地域、さらには中東地域の政治のありようを明らかにした。

3. 研究の方法

研究は対象地域である東アラブ地域を構成する国（シリア、レバノン、パレスチナ、イラク）を基本単位とし、それぞれの国における資料・情報収集、検証・分析作業は分担制とした。シリアの政治構造は青山（研究代表者）、レバノンは末近（研究分担者）、パレスチナは錦田（研究分担者）、そしてイラクは山尾（研究分担者）がそれぞれ担当した。また各国に関する補足的情報・資料の収集に関して、上記4名の統括のもと、公益財団法人中東調査会の高岡豊氏（研究協力者）、名古屋商科大学の溝渕正季氏（研究協力者）、日本貿易振興機構アジア経済研究所図書館資料整理課の高橋理枝氏（研究協力者）、龍谷大学の浜中新吾氏（研究協力者）に協力を要請した。

各国における資料・情報収集に関しては、衛星テレビ放送、インターネット・テレビ、インターネット通信社などが発信してきた報道、論説、解説を可能な限り収集した。また現地調査を実施し、現地研究機関・研究者、メディア関係者との面談を通じた一次情報の収集も行った。現地調査は、2015年度に1回（英国）、2016年度に1回（シンガポール、招聘）、2017年度に1回（レバノン）を実施した。また、訪問が実現しなかった対象国の研究機関・研究者との情報収集、意見交換は、ウェブ会議および第三国での面談などを通じて行った。このほか、国内研究会を2015年度に3回、2016年度に2回、2017年度に1回開き、研究進捗状況報告、成果報告を行った。

4. 研究成果

初年度（2015年度）は東アラブ地域各国の政情混乱に関わる資料・情報の収集や現地研究機関との関係活性化に力点を置いた。とりわけ、シリアに関しては、内戦の影響で連携が困難（ないしは不可能）となっていた研究機関との関係の再活性化をめざし、シリア国内で研究活動を続けているシリアの声世論調査研究センター（SOCPS）との信頼醸成を推し進め、内戦発生以降、把握が困難となっていた人口動態や安定の度合いを確認し得るデータの提供を受けることが可能となっ

た。

また、SOCPS と共同で、シリア政府支配地域における住民の対外意識を調査するための世論調査「中東世論調査（シリア 2016）」を実施した。調査は、研究代表者、研究分担者、研究協力者が質問票を作成、サンプリング、実査、集計を SOCPS が担当した。SOCPS 側の作業内容の詳細および分析結果は、内部資料「中東全国調査（シリア 2016）」（al-Istiqsa' al-Watani li-l-Sharq al-Awsat (Suriya 2016)、96 頁）として受領した。これをもとに、研究代表者が中心となって単純集計報告書を作成し、現代中東政治ネットワーク（CMEPS-J）を通じて公開した。同時に、データ解析の結果を雑誌論文などとして公開した。

なお、SOCPS との連携は2016年度以降も継続し、2016年度には、SOCPS および「世論調査による中東地域の政治秩序と変革の実証研究」（平成27～30年度科学研究費助成事業（基盤研究(B)15H03308））と共同で、シリア政府支配地域の住民が自身の生活をいかに評価し、諸外国の人道・経済支援にどのような見解を持っているかを把握することを目的とする「中東世論調査（シリア 2017）」を実施した。SOCPS 側の作業内容の詳細および分析結果は、第3年度（2017年度）に内部資料「中東全国調査（シリア 2017）」（al-Istiqsa' al-Watani li-l-Sharq al-Awsat (Suriya 2017)、100 頁）として受領した。これをもとに、研究協力者の一人である中東調査会の高岡豊上席研究員が中心となって単純集計報告書を作成し、CMEPS-J を通じて公開した。

さらに、2017年度には「グローバル関係学：グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて」（平成28～32年度科学研究費補助金新学術領域研究）の計画研究B02班「越境的非国家ネットワーク：国家破綻と紛争」がSOCPS と共同で実施した「中東世論調査（シリア 20-17-11）」の準備をサポートした。

第2年度（2016年度）は、初年度に引き続き、各国の政情混乱に関わる資料・情報の収集や現地研究機関との意見・情報交換を行う一方、その解読に力点を置いた。また非公的政治主体の実態解明に向けた分析を始動した。

の資料・情報の収集、意見・情報交換、およびその解読に関しては、研究代表者がシンガポール国立大学中東研究所の招聘を受け、2016年9月にシンガポールで開催された国際会議「シリア危機を理解する：独立から国際代理戦争へ」において報告を行い、本研究の成果の一部および進捗を発表した。

また2017年2月には、シリア和平ネットワーク、明治学院大学国際平和研究所、「世論調査による中東地域の政治秩序と変革の実証研究」、「グローバル関係学：グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて」（平成28～32年度科学研究費補助金新学術領域研究）

の総括班および計画研究 B02 班「越境的非国家ネットワーク：国家破綻と紛争」の協力のもと、国際会議「シリア危機への実効的アプローチに向けて」を開催した。同会議は非公開のワークショップ（2月10日）、公開シンポジウム（11日）から成り、シリア政治研究センター（SCPR）の研究者2名と国連開発計画（UNDP）職員1人、国連児童基金（UNICEF）職員1人を、シリア、レバノン、ヨルダンから招聘し、シリア内戦の実態を「最大公約的」に把握し、紛争下の惨状の軽減に向けて、NGOに代表される非国家主体がとり得る実効的アプローチを検討した。同会議には、SOCPSからも研究者4名を招聘する予定だったが、来日を実現せず、テレビ会議システムでの参加となった。

については、イスラーム国、シャームのヌスラ戦線に代表されるいわゆるアル=カーイダ系組織、これらの組織と連携するイスラーム主義/非イスラーム主義の政治主体に着目し、その編成、活動指針の解明を試みた。またこれと並行して、これらの非国家主体に対峙し、既存の国家枠組みの再活性化をめざす公的・非公的政治主体の動静についても精査し、これらの主体がいかなる関係を織りなし、どのような政治構造をかたち作っているのかを考察し、その成果を随時公開した。

最終年度（2017年度）は、初年度、第2年度に引き続き、各国の政情混乱に関わる資料・情報の収集、現地研究機関との意見・情報交換、そしてこれらの情報の解読と、非公的政治主体の実態解明に向けた分析に力点を置いた。その際、イスラーム国の衰退が著しいシリア・イラク政情、ドナルド・トランプ米政権発足に伴う東アラブ地域諸国のパワー・バランスの変化のなかで、非公的政治主体がどのように自らの存在を維持・強化しようとしているのかの解明をめざした。

に関しては、紛争下のシリアにおいて地道な研究活動を続けてきたSOCPSの研究者たちと9月にレバノンのベイルートでワークショップを実施した。同ワークショップは、「中東の紛争地に関係する越境移動の総合的研究：移民・難民と潜入者の移動に着目して」（平成24年～26年度科学研究費補助金（基盤研究(B):16H03307）、「グローバル関係学：グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて」（平成28～32年度科学研究費補助金新学術領域研究）の総括班および計画研究B02班「越境的非国家ネットワーク：国家破綻と紛争」と共催し、SOCPSの研究者3人を東京外国語大学中東研究日本センター（Japan Center for Middle Eastern Studies, JaCMES）に招聘し、シリア内戦の趨勢、とりわけ武力紛争の終息と国家再建の展望、そしてこれらに対するシリア国民の認識について意見交換を行った。

なお、本ワークショップと並行して、ベイルートにある国連西アジア経済社会委員会（UN-ESCWA）を訪問し、シリアにおける復興、

生活再建、政治移行に向けたプロジェクト「シリアの未来のための国民アジェンダ」（National Agenda for the Future of Syria, NAFS）の主要メンバーと意見交換を行った。

に関しては、シリア内戦におけるシリア政府の軍事的勝利に貢献した人民諸組織、同盟部隊の動静に着目し、成果発表を行った。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 18 件）

青山弘之、シリア内戦下のイスラエルによる侵犯行為の真意、国際情勢、第88号、2018年3月、113-128

SUECHIKA, Kota、”Strategies, Dynamics and Outcomes of Hezbollah’s Military Intervention in the Syrian Conflict”, Asian Journal of Middle Eastern and Islamic Studies、査読有り、Vol. 12, No. 1、2018、89-98

青山弘之、シリアの親政権民兵、中東研究、第530号、2017年9月、22-44

TAKAOKA, Yutaka、YAMAOKA, Dai、HAMANAKA, Shingo、SUECHIKA, Kota、NISHIKIDA, Aiko、AOYAMA, Hiroyuki、Report of Simple Tally of “Middle East Public Opinion Survey (Syria 2017)」、現代中東政治研究ネットワーク、2017年7月3日、https://cmeps-j.net/wp-content/uploads/2017/07/report_syria2017_eng.pdf

高岡豊、山尾大、浜中新吾、末近浩太、錦田愛子、青山弘之、「中東世論調査（シリア2017年）」単純集計報告書（CMEPS-J Report, No. 3）現代中東政治研究ネットワーク、2017年6月17日、https://cmeps-j.net/wp-content/uploads/2017/06/report_syria2017.pdf

青山弘之、政治的認知地図の変容に見る「シリア内戦」の影響、国際情勢紀要第87号、2017年3月 pp. 105-114

錦田愛子、北欧をめざすアラブ系「移民/難民」：再難民化する人びとの意識と移動モデル、広島平和研究、査読有り、第4巻、2017、13-34

錦田愛子、なぜ中東から移民/難民が生まれるのか：シリア・イラク・パレスチナ難民をめぐる移動の変容と意識、移民・ディアスポラ研究、第6号、2017、84-102

青山弘之、「シリア内戦」におけるイスラーム国の「存在意義」、国際問題、第 656 号、2016 年 11 月、40-48、http://www2.jiia.or.jp/kokusaimondai_archive/2010/2016-11_006.pdf

青山弘之、地域研究が読み解く世論調査：中東世論調査（シリア 2016 年）、中東研究、第 523 号、2016 年 10 月、77-90

AOYAMA, Hiroyuki, HAMANAKA, Shingo, TAKAOKA, Yutaka, SUECHIKA, Kota, NISHIKIDA, Aiko, YAMAOKA, Dai, MIZOBUCHI, Masaki, Report of Simple Tally of “Middle East Public Opinion Survey (Syria 2016)”, 現代中東政治研究ネットワーク、2016 年 4 月 28 日、https://cmeps-j.net/wp-content/uploads/2017/04/report_syria2016_eng.pdf

青山弘之、浜中新吾、高岡豊、末近浩太、錦田愛子、山尾大、溝淵正季、「中東世論調査（シリア 2016 年）」単純集計報告書（CMEPS-J Report, No. 3）現代中東政治研究ネットワーク、2016 年 4 月 19 日、https://cmeps-j.net/wp-content/uploads/2017/04/report_syria2016.pdf

青山弘之、紛争下のシリアにおける暴力装置の変容が持つ政治的含意、国際情勢紀要、第 86 号、2016 年 3 月、107-123

末近浩太、クサイルからの道：ヒズブッラーによるシリア「内戦」への軍事介入の拡大、中東研究、第 522 号、2016、52-64

山尾大、介入の縮小という隘路：オバマ政権のイラク政策と広がる宗派対立、中東研究、第 527 号、2016、14-27

山尾大、「古参」幹部の政治か、合理的政府の形成か：アバーディー改革が惹起した政治構造をめぐるポリティクス、海外事情、第 64 号第 9 巻、2016、63-77

山尾大、分断を促進する安全保障：戦後イラクの事例から、立命館大学人文科学研究所紀要、第 109 号、2016、7-45

山尾大、「イスラーム国」の拡大と引き裂かれるイラク、海外事情、第 63 巻第 9 号、2015、2-15

〔学会発表〕（計 10 件）

SUECHIKA, Kota, “‘Sectarianisation’ of the Syrian Conflict: Hizballah’s

Military Intervention and Redefinition of ‘Resistance’,” International Conference “The Conflicts of Powers in the Middle East: States and Non-States,” Centre for Middle East Studies, Institute of Mediterranean and Oriental Cultures, Polish Academy of Sciences, Staszic Palace, Warsaw, Poland, November 10, 2017

NISHIKIDA, Aiko, TAKAOKA, Yutaka and HAMANAKA Shingo, “Syrian and Palestinian Diaspora: Their Experience and Consciousness of Migration,” The International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) Annual Conference 2017 “Continuity and Change: Diaspora, Religion, Kinship, Food, Art and Architecture,” Jagiellonian University, Krakow, Poland, 10 August 2017

YAMAOKA, Dai, “How Nation was re-created? Comparative Studies in Post-war Japan and Iraq”, 7th Iraqi Japanese International Conference, Role of Religious Scholars and Intellectual Elites to Enhance the National Identity in Iraq and Japan, (Kufa University and Abbasi Ataba, Najaf and Karbala, Iraq, 23-24 January, 2017

山尾大「分断社会の多元的な政軍関係：戦後イラクを事例に」『国際政治学会』幕張メッセ、2016 年 10 月 14 日

AOYAMA, Hiroyuki, “How Did Syria Develop into a ‘Strong State’?: Focusing on Politics on the ‘Social Cleavage’,” Middle East Institute, National University of Singapore, MEI Annual Conference 2016 “Understanding the Syrian Crisis: From National Independence to International Proxy War,” Goodwood Park Hotel, Singapore, September 1-2, 2016

YAMAOKA, Dai, “Mobilising Sectarianism in the Changing Regional and International Politics: The Case of Iraq”, 24th World Congress of Political Science (International Political Science Association, IPSA, Poznan, Poland, 25 July 2016

SUECHIKA, Kota, “The Rise of the

Pan-Shiites Militia Network: Hizballah's Military Intervention in the Syrian Conflict(s)," BRISMES Annual Conference 2016 "Networks: Connecting the Middle East through Time, Space and Cyberspace," University of Wales Trinity St David, Lampeter Campus, Lampeter, UK, July 14, 2016

NISHIKIDA, Aiko, "Stability of Jordanian Monarchy: Factors for King's Authority," International Workshop "Basis of the Survival of Arab Monarchies," IDE-JETRO and CRES, the Heinrich Böll Stiftung, Rabat, Morocco, November 19, 2015

錦田愛子「再難民化する難民たち：中東から北欧を目指すアラブ系住民の移動」日本政治学会 2015 年度研究大会、千葉大学、2015 年 10 月 11 日

青山弘之「シリア：「今世紀最悪の人道危機」をもたらした重層的紛争（企画セッション「アラブの春」からダーイシュ台頭へ：暴力の連鎖と混乱の加害者、被害者、そして実行犯は誰か？）」、日本中東学会第 31 回年次大会、同志社大学、2015 年 5 月 17 日

〔図書〕(計 4 件)

末近浩太、岩波書店、イスラーム主義：もう一つの近代を構想する、2018、256

青山弘之、岩波書店、シリア情勢：終わらない人道危機、2017、224

錦田愛子（編著）有信堂高文社、移民 / 難民のシティズンシップ、2016、258

久保慶一、末近浩太、高橋百合子、有斐閣、比較政治学の考え方(ストゥディア)、2016、290

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
<http://syriaarabspring.info/>
<https://cmeps-j.net/>
<https://www.newsweekjapan.jp/writer/aoyama/>
<https://news.yahoo.co.jp/byline/aoyamahirouyuki/>
<https://news.yahoo.co.jp/byline/suechikakota/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

青山 弘之 (AOYAMA, Hiroyuki)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院
教授
研究者番号：60450516

(2) 研究分担者

末近 浩太 (SUECHIKA, Kota)
立命館大学・国際関係学部・教授
研究者番号：70434701

錦田 愛子 (NISHIKIDA, Aiko)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
研究者番号：70451979

山尾 大 (YAMA0, Dai)
九州大学・比較社会文化研究院・准教授
研究者番号：80598706

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

高岡 豊 (TAKAOKA, Yutaka)
公益財団法人中東調査会・上席研究員

浜中 新吾 (HAMANAKA, Shingo)
龍谷大学・法学部・教授

高橋 理枝 (TAKAHASHI, Rie)
日本貿易振興機構アジア経済研究所・図書館資料整理課

溝淵 正季 (MIZOBUCHI, Masaki)
名古屋商科大学・経済学部・准教授